

世界無形遺産

人形浄瑠璃

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

文楽

平成21年3月公演
主な出演者

【太夫】

豊竹咲大夫

【三味線】

鶴澤寛治(人間国宝)

【人形】

吉田文雀(人間国宝)



昼の部

いづのたにふたほくん き
三谷嫩軍記

くまがいざくら だん
熊谷桜の段

くまがいじんや だん
熊谷陣屋の段

紅葉狩

鶴澤重造作曲
藤間寿右衛門振付
もみじ がり

夜の部

に じん さん ば せう
二人三番叟

じょ しよざくらほりかわ ようち
御所桜堀川夜討

べん けいじょうし だん
弁慶上使の段

けいせい いたび きんへん
傾城恋飛脚

にのくらむら だん
新口村の段



芸術文化振興基金助成事業

ゆとろぎ開館3周年特別公演

平成21年 **3月15日(日)**

- 主催 羽村市教育委員会
- 企画・運営 ゆとろぎ協働市民の会

【開演】 **昼の部** 午後1時30分 **夜の部** 午後6時

羽村市生涯学習センターゆとろぎ 大ホール

全席指定 昼又は夜1回につき〈前売券〉3,000円 〈当日券〉3,500円 〈高校生以下〉1,000円

●羽村市生涯学習センターゆとろぎ 電話 042-570-0707 FAX 042-570-6422 〈チケット発売〉11月15日(土)より ゆとろぎ

写真:青木祐二

平成二十一年三月地方公演 配役表

二月二十八日～三月二十二日・二十五日

昼の部

一谷嫩軍記

熊谷桜の段

(人形役割)

竹本 三輪大夫 妻相模 吉田和生

熊谷陣屋の段

前 豊竹 咲大夫 梶原平次景高 吉田文哉

鶴澤 燕三 石屋の弥陀六 吉田玉佳

奥

竹本 文字久大夫 熊谷次郎直実 吉田玉輝

野澤 錦糸 源義経 吉田勘弥

百姓 姓経 吉田勘緑

軍兵 兵大 大ぜい

奴姓 姓大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

大兵 兵大 大ぜい

紅葉狩

初代藤澤重造作曲
初代藤澤重造作曲
初代藤澤重造作曲

豊竹 呂勢大夫 平維茂 吉田幸助

竹本 南都大夫 更鬼科 吉田清之助改め

豊竹 始大夫 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

野澤 喜一郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

鶴澤 清二郎 更鬼科 吉田清之助改め

二人三番叟

竹本 津国大夫 (九日まで) 豊竹 始大夫 (九日まで) 鶴澤 清二郎 (十日から)

豊竹 文栄大夫 (九日まで) 鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

鶴澤 清二郎 (十日から)

御所桜堀川夜討

竹本 津駒大夫 侍従太郎 吉田玉志

鶴澤 寛治 妻花の井 吉田玉英

鶴澤 寛治 武蔵坊弁慶 吉田玉輔

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

鶴澤 寛治 腰元信夫 吉田文雀

傾城恋飛脚

竹本 千歳大夫 龜屋忠兵衛 吉田清三郎

豊澤 富助 傾城梅川 吉田清一郎

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

豊澤 富助 忠三女房 吉田勘市

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

(人形役割)

望月太明蔵社中

一谷嫩軍記 熊谷桜の段・熊谷陣屋の段

『平家物語』に描かれる、平敦盛を討った熊谷直実の悲嘆。これを題材とした、五段続きの時代物の三段目で、この段が並木宗輔の最後の作となりました。宝暦元年(七五二)、豊竹座(大阪)で初演。

一谷での源平の合戦。初陣する息子が心配で、はるばると関東から須磨まで旅して来た相模。夫直実は、息子と同じ歳の敦盛を組み伏せながら、子に死なれた親の悲しみが思いやられ、敦盛を助けようとしたものの、やむを得ず討つたことでした。ところが、首実検に訪れた義経に直実が見せたのは、息子の首。衝撃を受ける相模……。陣屋に立てられた、桜の枝を伐るのを禁じた義経の高札の真意を、直実は、息子を身代わりにして、院の落胤である敦盛を助けることと察し、大切な我が子を犠牲にしたのでした。

子を失った母の激しい嘆き、父の深い悲しみが強く心を打つ豪快さと緊張感に満ちた、文楽の代表的演目に数えられる傑作です。

紅葉狩

信州・戸隠山の鬼女伝説を題材とする能『紅葉狩』によって、明治時代に作られた歌舞伎舞臺をもとに、昭和十四年(一九三九)、四ツ橋文楽座(大阪)で初演。優雅な舞と力強い立ち回りを見どころとした景事です。

戸隠山で、紅葉を楽しむ平維茂。美しい姫から酒宴に誘われ、姫の舞を楽しむうちに、睡魔が……。恐ろしい鬼女の正体を現す姫、危ういところを目覚めた維茂、二人の激しい戦いが始まります。

二人三番叟

響き渡る鈴の音と人形遣いの足拍子の心地よさ! 能の『翁』をもとにした義太夫節の御祝儀曲『寿式三番叟』による作品です。短編ながら、躍動感にあふれた三番叟の舞はもちろん、義太夫節と三味線の豊かな音楽性も、お楽しみいただけます。